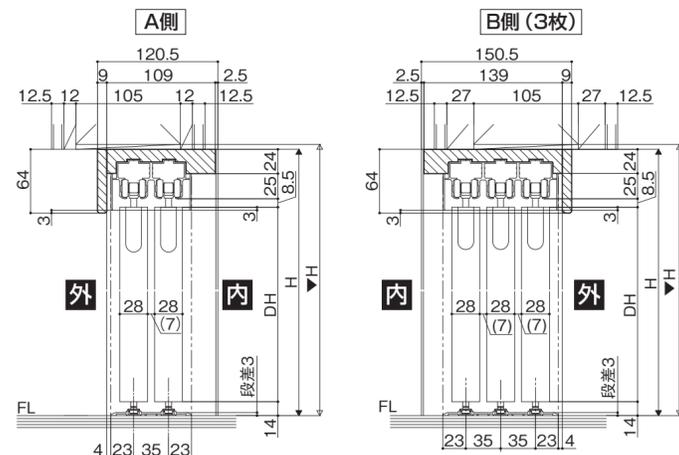




# リビング建材 ウッディーライン TOSTEM 可動間仕切り 引戸上吊方式 コーナータイプ 取付け説明書

## ■可動間仕切り引戸上吊方式コーナータイプ / 2×3枚、(3×2枚)

### ●縦断面図



※A側が3枚、B側が2枚の呼称3×2枚は本図と対称とします。

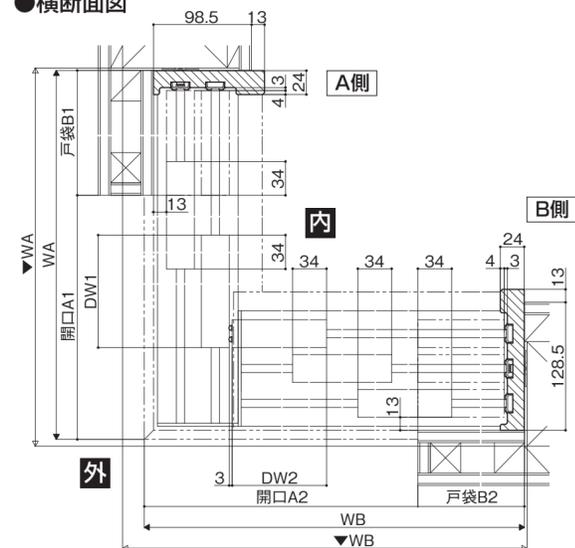
| W呼称  | 開口寸法 (mm) |      | 戸袋寸法 (mm) |      |
|------|-----------|------|-----------|------|
|      | WA寸法      | WB寸法 | B1寸法      | B2寸法 |
| 2×3枚 | 2501      | 3282 | 839       | 839  |

※本表は、可動間仕切りユニット引戸上吊方式の規格サイズ本体 (DW819) を使用した場合の寸法です。

算出式 (2×3枚 (3×2枚)) :  
 $DW1 = (WA - 44) / 3$   
 $DW2 = (WB - 6) / 4$   
 $A1 = (2WA - 16) / 3$   
 $A2 = (3WB - 74) / 4$   
 $B1 = (WA + 16) / 3$   
 $B2 = (WB + 74) / 4$

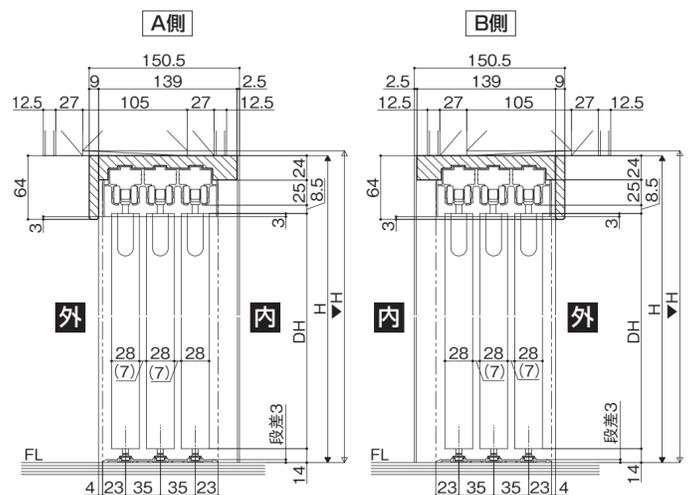
| 部材名称     | 2枚側   | 3枚側   |
|----------|-------|-------|
|          | 枠幅寸法  | 枠幅寸法  |
| 縦枠       | 111.5 | 141.5 |
| 鴨居       | 109   | 139   |
| 幕板       | 9     | 9     |
| フラット下レール | 81    | 116   |

### ●横断面図



## ■可動間仕切り引戸上吊方式コーナータイプ / 3×3枚

### ●縦断面図



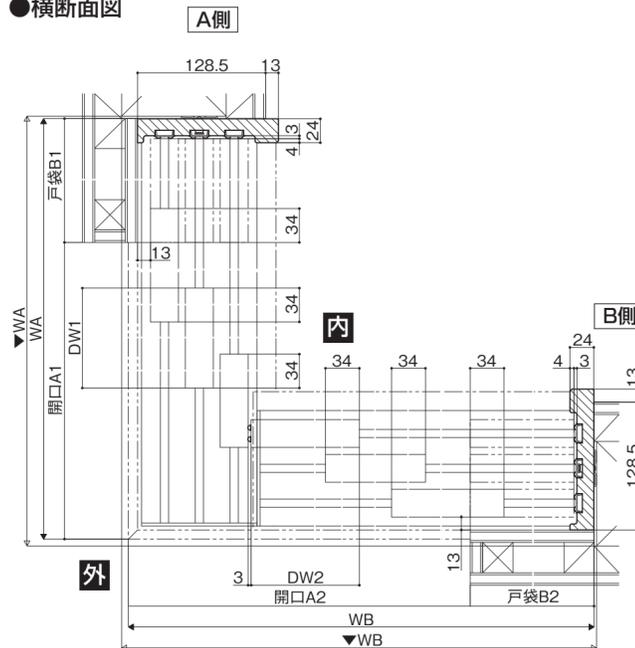
| W呼称  | 開口寸法 (mm) |      | 戸袋寸法 (mm) |      |
|------|-----------|------|-----------|------|
|      | WA寸法      | WB寸法 | B1寸法      | B2寸法 |
| 3×3枚 | 3286      | 3317 | 839       | 839  |

※本表は、可動間仕切りユニット引戸上吊方式の規格サイズ本体 (DW819) を使用した場合の寸法です。

算出式 :  
 $DW1 = (WA - 10) / 4$   
 $DW2 = (WB - 41) / 4$   
 $A1 = (3WA - 70) / 4$   
 $A2 = (3WB - 39) / 4$   
 $B1 = (WA + 70) / 4$   
 $B2 = (WB + 39) / 4$

| 部材名称     | 3枚側   |
|----------|-------|
|          | 枠幅寸法  |
| 縦枠       | 141.5 |
| 鴨居       | 139   |
| 幕板       | 9     |
| フラット下レール | 116   |

### ●横断面図



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

### ■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

**▲注意** …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

### ▲注意

- 吊車の本体への取付けは、吊車が本体木口面と同一面になるまで押し込んでください。押し込み後、引張って抜けないことを確認してください。押し込みが足りないと本体が脱落するおそれがあります。
- 上レールは出荷時に鴨居に仮固定されていますので、必ず指定のねじで躯体へ固定してください。本体が脱落するおそれがあります。

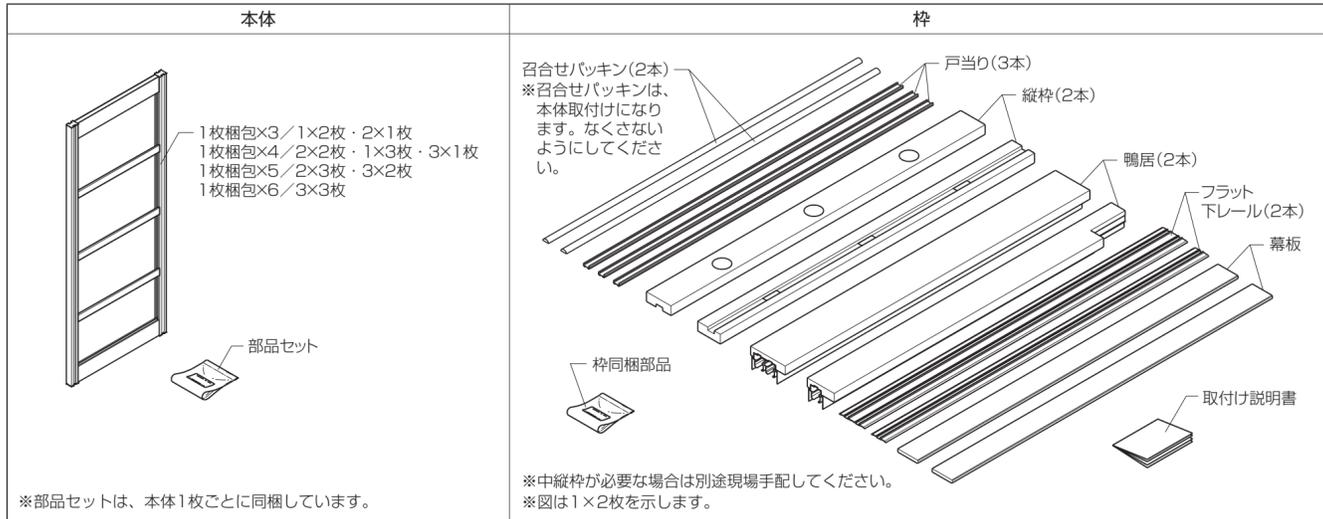
### ■取付け上のお願い

- 本製品は上吊方式を採用しています。梁又はまぐさは、強度を要するため、必ず本体重量に耐える断面寸法 (右記表) を使用してください。上枠の垂下がりの原因になります。
- 梁又はまぐさが軽量鉄骨の場合は、ねじ保持力が弱いので直接固定しないでください。必ず枠と軽量鉄骨の間に木枠を入れて取付けてください。
- 本製品には、中縦枠は同梱されていません。小壁の仕上げは現場にて対応してください。
- 本製品のねじ締め付け時には、クラッチ付きのドライバーを使用してください。締め付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 本製品の組立て・取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。)
- 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。枠の水平・垂直がでていないと本体召合せ部のすき間の原因になります。
- 造作材・建具枠を取付けるときは、必ず接着剤 (現場手配) を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤 (現場手配) を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」又はノンホルムタイプを使用してください。
- 造作材・建具枠の下地材には、必ず乾燥材 (含水率20%以下) を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから取付けてください。
- 枠の組立て後、ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損するおそれがあります。
- 建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には、必ずすき間をつかって納めてください。
- 縦枠と柱・間柱とのすき間は、枠固定金具を調整してすき間をなくし、内装ボードを必ず縦枠に突きあててください。突きあてができない場合は、かい木を入れてください。
- 上枠とまぐさのすき間は必ずかい木を入れてください。
- かい木には合板などの乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル (床面) に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に必ず防水処理をしてください。
- 本体にガムテープ・クラフトテープなどの粘着力の強いものを直接張らないでください。養生の際は、マスキングテープなど粘着力の弱いものを使用してください。
- Wソフトモーション部品に潤滑油などを塗布しないでください。作動不具合の原因になります。

| 間口  | 本体重量  | 梁又はまぐさの断面寸法 (幅×高さ) |
|-----|-------|--------------------|
| 9R  | 75kg  | 105mm×300mm以上      |
| 12R | 100kg | 105mm×360mm以上      |

■部品・部材の明細

※枠はロックダウン、本体は完成品です。



| 部品名称      | W呼称        |            |      |            |      |
|-----------|------------|------------|------|------------|------|
|           | 1×2枚, 2×1枚 | 1×3枚, 3×1枚 | 2×2枚 | 2×3枚, 3×2枚 | 3×3枚 |
| 鴨居        | 2          | 2          | 2    | 2          | 2    |
| 縦枠        | 2          | 2          | 2    | 2          | 2    |
| フラット下レール  | 2          | 2          | 2    | 2          | 2    |
| 幕板        | 2          | 2          | 2    | 2          | 2    |
| 戸当り       | 3          | 4          | 4    | 5          | 6    |
| 召合せパッキン   | 2          | 2          | 2    | 2          | 2    |
| 部品セット     | 3          | 3          | 3    | 3          | 3    |
| 本体 (1枚梱包) | 3          | 4          | 4    | 5          | 6    |

■枠同梱部品

| 部品名称                             | 写真 |
|----------------------------------|----|
| 皿小ねじM4×50 (鴨居・縦枠組立て用)            |    |
| トラスタッピンねじφ4×50 (鴨居取付け用)          |    |
| なべタッピンねじφ4×40 (縦枠取付け用)           |    |
| 吊車A                              |    |
| 吊車B                              |    |
| ねじ頭塗装皿タッピンねじφ4×18 (フラット下レール取付け用) |    |

■本体部品セット

| 部品名称    | 入数 |
|---------|----|
| ガイドピボット | 2  |

■開口部の作り方

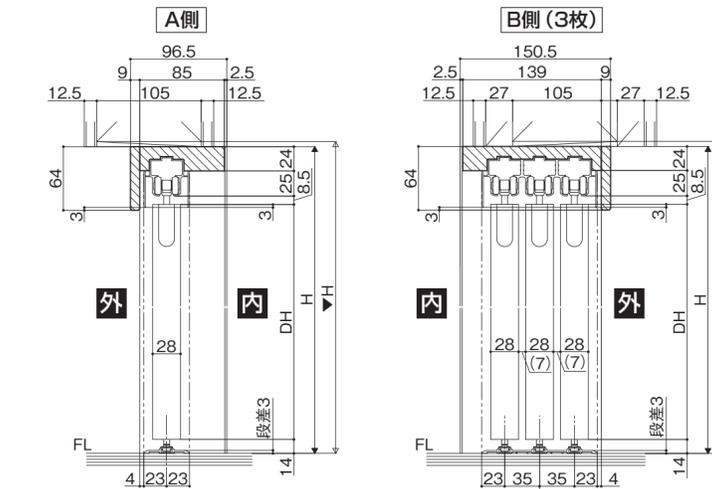
●製品寸法(納まり図参照)に合わせて、開口部の下地材をつくってください。

- お願い
- ※開口部の水平・垂直を正しく出してください。
  - ※本製品は上吊方式を採用しています。梁(まぐさ)は強度を要するため、必ず本体重量に耐える断面寸法のものを使用してください。上枠の垂下がりの原因になります。
  - ※本体重量は1枚あたり15~25kg程になりますので必ず構造計算を行い、取付け躯体に十分な強度を持たせてください。

| 間口  | 本体重量  | 梁又はまぐさの断面寸法(幅×高さ) |
|-----|-------|-------------------|
| 9尺  | 75kg  | 105mm×300mm 以上    |
| 12尺 | 100kg | 105mm×360mm 以上    |

■可動間仕切り引戸上吊方式コーナータイプ / 1×3枚、(3×1枚)

●縦断面図



※A側が3枚、B側が1枚の呼称3×1枚は本図と対称とします。

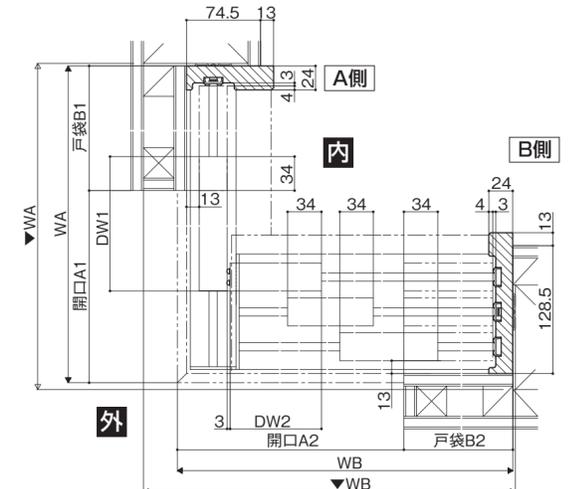
| W呼称  | 開口寸法(mm) |      | 戸袋寸法(mm) |      |
|------|----------|------|----------|------|
|      | WA寸法     | WB寸法 | B1寸法     | B2寸法 |
| 1×3枚 | 1716     | 3247 | 839      | 839  |
| 3×1枚 | 3247     | 1716 | 839      | 839  |

※本表は、可動間仕切りユニット引戸上吊方式の規格サイズ本体(DW819)を使用した場合の寸法です。

算出式 1×3枚(3×1枚) :  
 $DW1 = (WA - 78) / 2$   
 $DW2 = (WB + 29) / 4$   
 $A1 = (WA + 38) / 2$   
 $A2 = (3WB - 109) / 4$   
 $B1 = (WA - 38) / 2$   
 $B2 = (WB + 109) / 4$

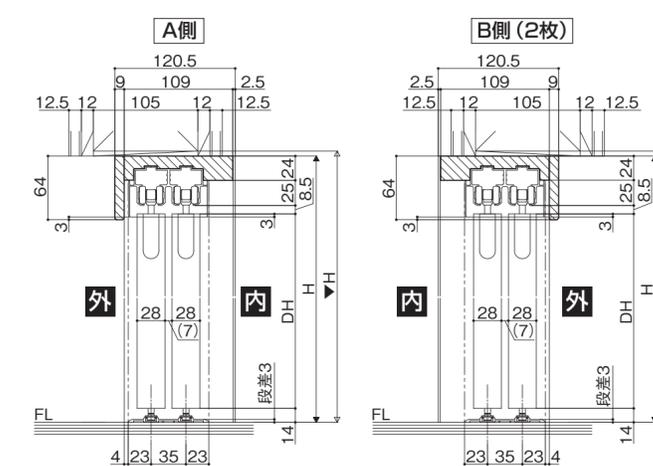
| 部品名称     | 1枚側  | 3枚側   |
|----------|------|-------|
|          | 枠幅寸法 | 枠幅寸法  |
| 縦枠       | 87.5 | 141.5 |
| 鴨居       | 85   | 139   |
| 幕板       | 9    | 9     |
| フラット下レール | 46   | 116   |

●横断面図

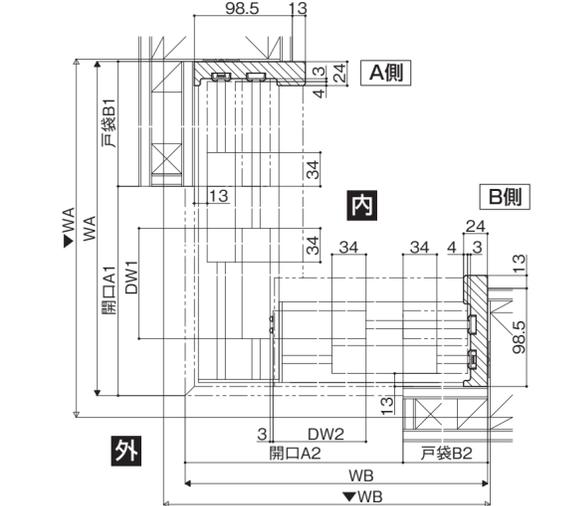


■可動間仕切り引戸上吊方式コーナータイプ / 2×2枚

●縦断面図



●横断面図



| W呼称  | 開口寸法(mm) |      | 戸袋寸法(mm) |      |
|------|----------|------|----------|------|
|      | WA寸法     | WB寸法 | B1寸法     | B2寸法 |
| 2×2枚 | 2466     | 2497 | 839      | 839  |

※本表は、可動間仕切りユニット引戸上吊方式の規格サイズ本体(DW819)を使用した場合の寸法です。

算出式(2×2枚) :  
 $DW1 = (WA - 9) / 3$   
 $DW2 = (WB - 40) / 3$   
 $A1 = (2WA - 51) / 3$   
 $A2 = (2WB - 20) / 3$   
 $B1 = (WA + 51) / 3$   
 $B2 = (WB + 20) / 3$

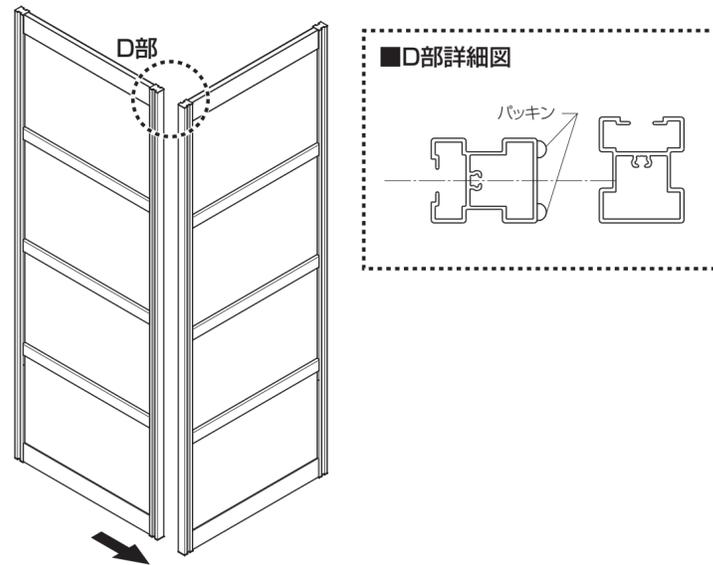
| 部品名称     | 2枚側   |
|----------|-------|
|          | 枠幅寸法  |
| 縦枠       | 111.5 |
| 鴨居       | 109   |
| 幕板       | 9     |
| フラット下レール | 81    |

## ■召合せパッキンの取付け

- ①本体の吊込み・建付け調整を行った後、召合せ部に本体同梱のパッキンを取付けます。
- ②パッキン裏面のシートをはがし、右図の位置に5kg程度の力で押し張付けます。パッキンは長めのものを同梱していますので、現場でカットしてください。

**お願い**

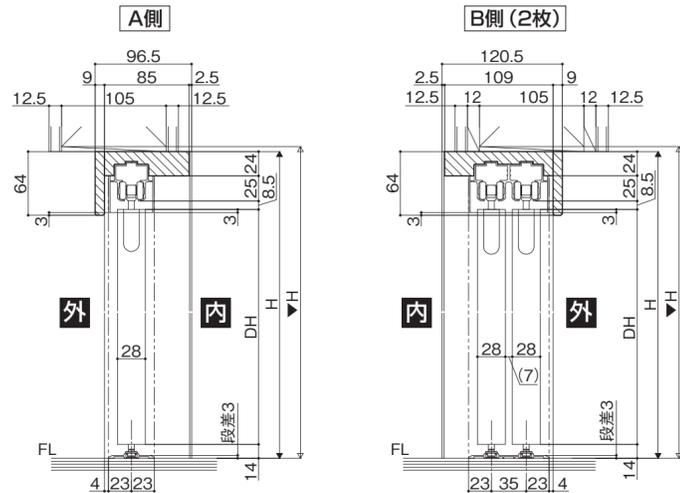
- ※パッキンは、必ず本体を吊込んで、建付け調整を行ってから張付けてください。
- ※パッキンは、張付け面のホコリ・汚れ・油分などを取除いてから張付けてください。



## ■参考納まり図

### ■可動間仕切り引戸上吊方式コーナータイプ / 1×2枚、(2×1枚)

#### ●縦断面図



※A側が2枚、B側が1枚の呼称2×1枚は本図と対称とします。

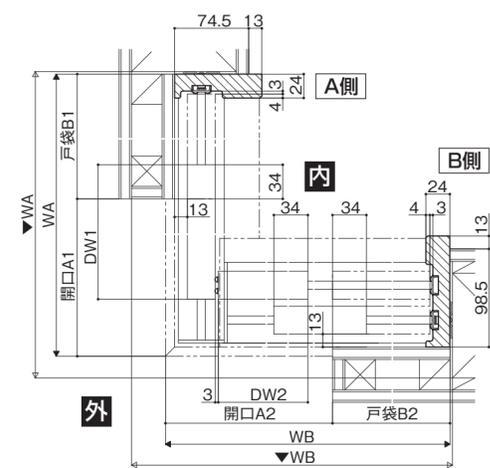
| W呼称  | 枠外寸法 (mm) |      | 戸袋寸法 (mm) |      |
|------|-----------|------|-----------|------|
|      | WA寸法      | WB寸法 | B1寸法      | B2寸法 |
| 1×2枚 | 1681      | 2462 | 839       | 839  |
| 2×1枚 | 2462      | 1681 | 839       | 839  |

※本表は、可動間仕切りユニット引戸上吊方式の規格サイズ本体 (DW819) を使用した場合の寸法です。

算出式 1×2枚 (2×1枚) :  
 $DW1 = (WA - 43) / 2$   
 $DW2 = (WB - 5) / 3$   
 $A1 = (WA + 3) / 2$   
 $A2 = (2WB - 55) / 3$   
 $B1 = (WA - 3) / 2$   
 $B2 = (WB + 55) / 3$

| 部材名称     | 1枚側  | 2枚側   |
|----------|------|-------|
|          | 枠幅寸法 | 枠幅寸法  |
| 縦枠       | 87.5 | 111.5 |
| 鴨居       | 85   | 109   |
| 幕板       | 9    | 9     |
| フラット下レール | 46   | 81    |

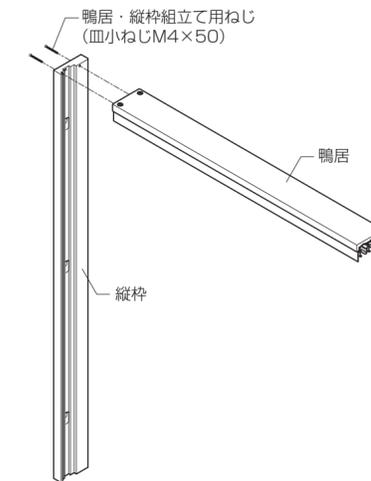
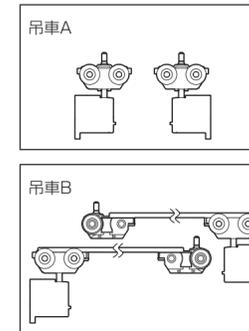
#### ●横断面図



## ■取付け順序

### 1 床の張り方

### 2 枠の組立て

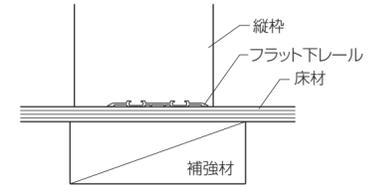


※縦枠の切詰めは不要です。

## ■取付け詳細

### 1 床の張り方

- ①納まり図を参考にフラット下レールの位置を決めます。※フラット下レールの取付け幅より広い補強材が入っていることを確認してください。
- ②床を張ります。※本製品は床先張り (枠後付け) 専用です。枠の取付け前に床を張ってください。



### 2 枠の組立て

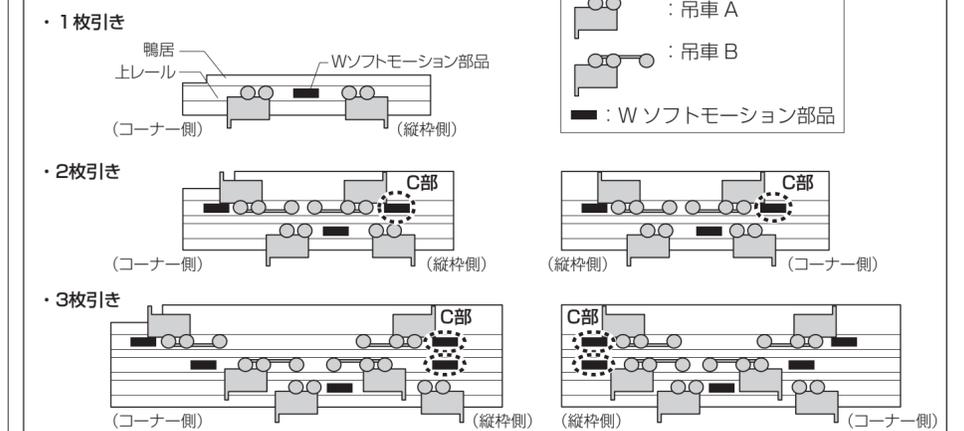
#### 1 吊車の取付け

- 吊車AはA同士、BはB同士、それぞれ2個セットで各本体に使用します。使いわけを間違えると、Wソフトモーションがうまく作動しません。
- ※なお、Wソフトモーション部品に左右の向きはありません。



#### ■吊車の使いわけ図 ※説明の都合上、一部吊車のイラストを上下反転させています。

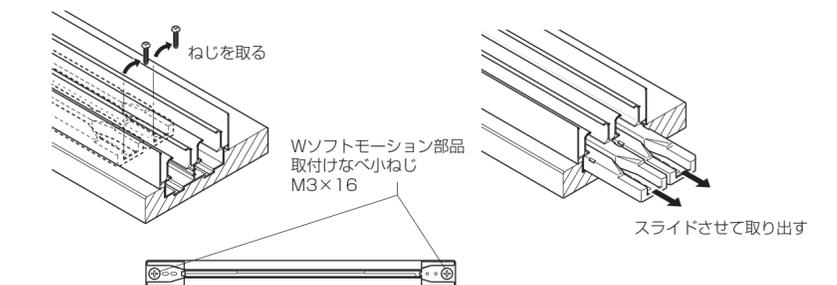
下図のとおり、吊車を上レールの各木口よりそれぞれ挿入してください。



- 2枚引き、3枚引きは吊車挿入前にC部のWソフトモーション部品を取り外してください。

#### ■Wソフトモーション部品の取外し

- ①Wソフトモーション部品の取付けねじ2本を外し、横にスライドさせてレール端部より取出してください。※引違い3枚建、引違い4枚建については、ロットNo. ラベル側のWソフトモーション部品を取外してください。
- ※C部以外のWソフトモーション部品を外す場合、レールと鴨居を固定しているねじが邪魔になる場合があります。その場合は、固定ねじを外してから、Wソフトモーション部品を取外してください。



- ②Wソフトモーション部品を外した側から、吊車の使いわけ図の向きで吊車を挿入してください。

**お願い**

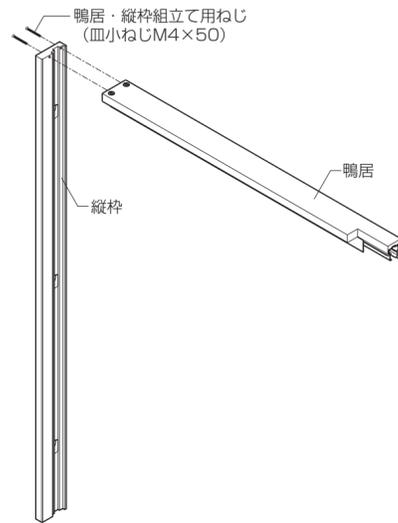
※吊車には左右があります。必ず吊車の使いわけ図の向きで挿入してください。

- ③外したWソフトモーション部品を元の位置に再度取付けてください。※Wソフトモーション部品に左右はありません。
- ④組立て中に吊車が動かないように、マスキングテープなど (現場手配) で仮固定してください。

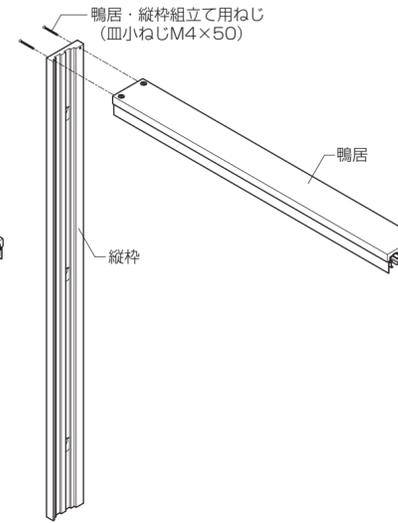
## 2 縦枠の組立て

●下図のように鴨居と縦枠を組合せ、鴨居・縦枠組立て用ねじ(皿小ねじM4×50)で固定します。

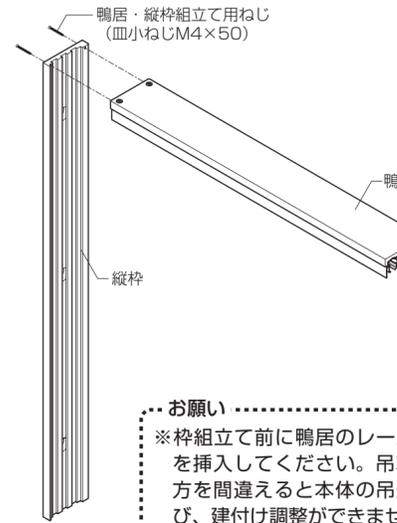
### ●1枚引き



### ●2枚引き

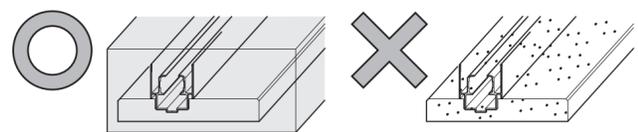


### ●3枚引き



### ●お願い

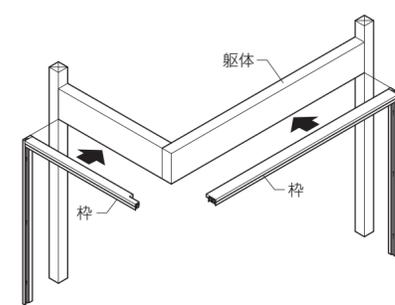
※枠は取付け前に開梱した状態で現場に置かないようにしてください。現場の粉塵がWソフトモーション部品に混入し、作動不具合の原因となります。



### ●お願い

※枠組立て前に鴨居のレールに吊車を挿入してください。吊車の入れ方を間違えると本体の吊込みおよび、建付け調整ができません。  
 ※鴨居のコーナー側と縦枠側の向きに注意して組立てをしてください。  
 ※鴨居にジョイント金具と組立て穴のある側が縦枠側となります。  
 ※納まり図を確認し、鴨居と縦枠の組合せに注意して組立てをしてください。

## 3 枠の取付け



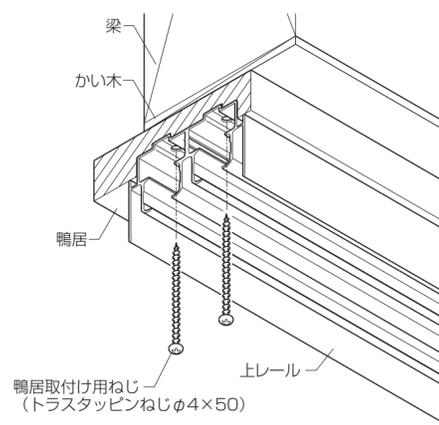
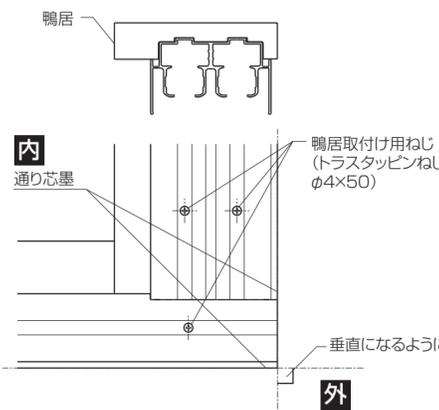
### 3 枠の取付け

①納まり図を参考に枠を取付ける位置に、通りの芯墨を出してください。  
 ※部材の方向(内・外側)を確認して取付けを行ってください。  
 ②位置出しをしたところにそれぞれの鴨居を鴨居取付け用ねじ(トラスタッピンねじφ4×50)で仮固定します。  
 ※墨出した位置にそれぞれの鴨居を突き付け、鴨居が互いに垂直になるように設置してください。

③鴨居はかい木を入れて、上レールの穴から鴨居取付け用ねじ(トラスタッピンねじφ4×50)で躯体に固定してください。

### ●お願い

※鴨居の躯体固定ねじを締めすぎると、本体の動きが悪くなる場合があります。本体を吊込んだときに動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。



## ■本体の調整

※本体召合せ部のチリが大きい場合、吊車の上下・前後調整でチリが小さくなるように調整してください。

### 1 上下調整(調整幅+4mm、-1mm)

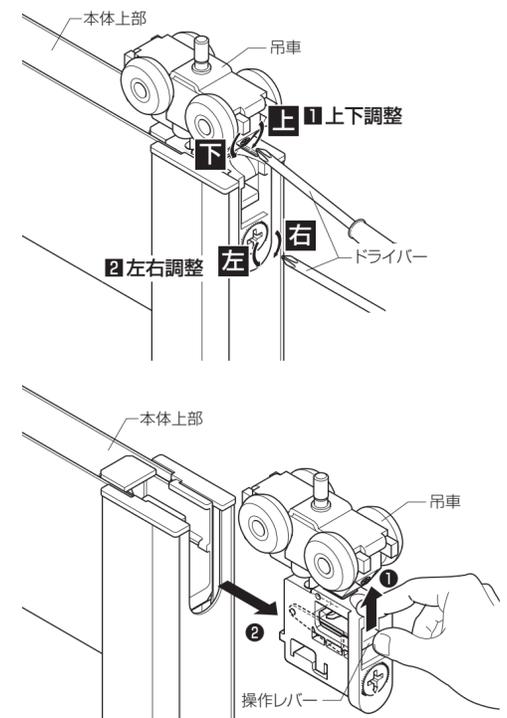
●プラスドライバーで、吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。  
 ※床面と本体下部とのチリ寸法は、12mmが標準です。  
 ※本体を下げすぎるとガイドピボット先端部と本体が当たりますので、下げすぎないでください。

### 2 前後調整(±2mm)

●前後調整は、プラスドライバーで吊車下部の調整ねじを右に回すと本体が右へ動き、左に回すと本体が左に動きます。

### 3 本体の取外し方法

●本体を手で支えてから吊車の操作レバーを指でつまみ、上に押上げます。次に吊車を本体の内部ケースより引抜き、取外します。  
 ※取外しがやりにくい場合は、マイナスドライバーなどを使用して操作レバーを押上げながら引抜いてください。



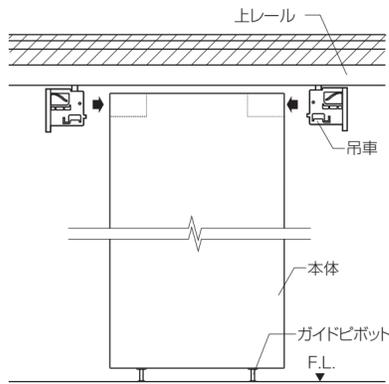
## ■Wソフトモーション機構 異常時の対処方法

| 現象                      | チェックポイント  | 対処方法   |
|-------------------------|---|--|
| 閉まりきらない<br>すき間<br>STOP! | ●枠の取付け精度が許容範囲をオーバーしている<br>※「 <b>取付け精度の許容範囲</b> 」の欄参照<br>●Wソフトモーション部品の外観に潤滑剤が塗布された形跡がある  | 許容範囲内となるように再取付けしてください。<br>Wソフトモーション部品の交換が必要です。 |
| ブレーキが効かない               | ●Wソフトモーション部品の外観に潤滑剤が塗布された形跡がある<br>※ブレーキの効きには限界があります。重量の重たい本体を速く閉めるとブレーキ感を弱く感じたり、逆に重量の軽い本体・Wサイズの小さい本体を速く閉めるとブレーキ感を強く感じたりする場合があります。 | Wソフトモーション部品の交換が必要です。                           |

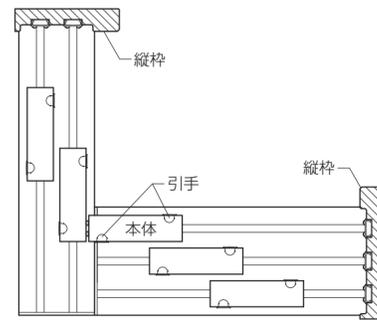
③片側ずつ吊車を本体に**水平に押込む**と、ワンタッチで取付けられます。  
 ※吊車の凸部を本体上部溝の凹部に合わせて差込みます。

**▲注意**

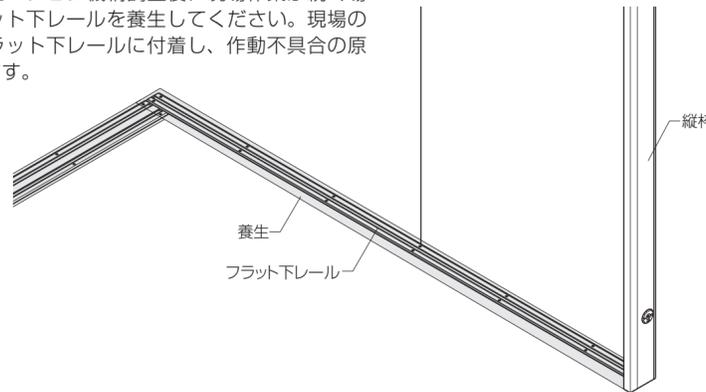
●吊車の本体への取付けは、吊車が本体木口面と同一面になるまで押込んでください。  
 押込み後、引張って抜けないことを確認してください。押込みが足りないと本体が  
 落下するおそれがあります。



**お願い**  
 ※引手方向(勝手)を確認して柵に吊込んでください。



※Wソフトモーション機構調整後、現場作業が続く場合はフラット下レールを養生してください。現場の粉塵がフラット下レールに付着し、作動不具合の原因になります。



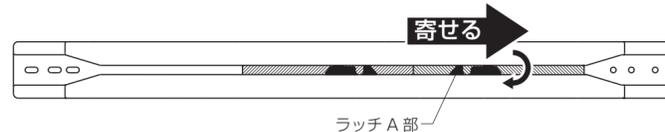
**■Wソフトモーション機構の復帰方法**

●本体を吊んでもWソフトモーション機構が作動しない場合は、Wソフトモーション部品を確認してください。  
 Wソフトモーション部品の正常な状態は下図の通りです。  
 下図の状態ではない場合、以下の手順で正常な状態に戻してください。

※正常な状態はスライダ1とスライダ2が離れた状態です。



①スライダを片側に寄せ、寄せた側と逆側のラッチA部にドライバーなどを挿入し、片側のラッチを回転させます。



②回転させたラッチと逆側のラッチ(ラッチB部)にドライバーを挿入し、引っ張ります。引っ張ると端部でラッチが回転し正常な状態に戻ります。

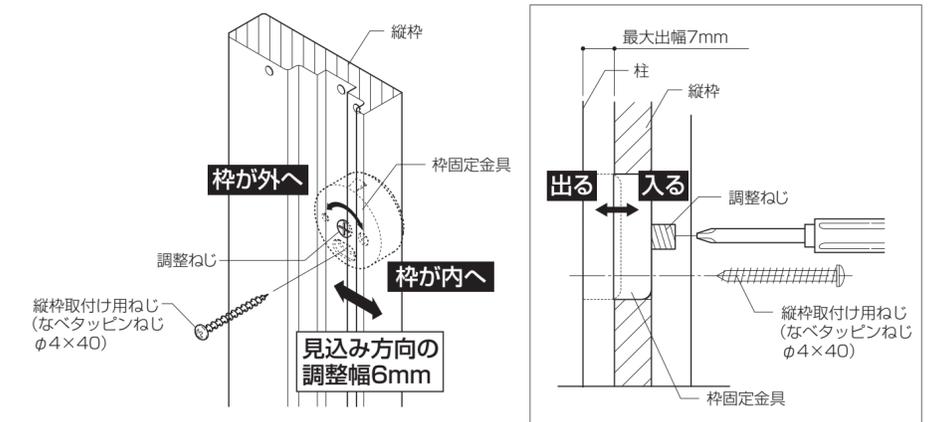


- ④縦柵に取付けられている柵固定金具(縦柵に3個取付け)の調整ねじを時計回りに回し、金具を均等に  
 出してください。
- ⑤柵の垂直を確認してください。
- ⑥縦柵取付け用ねじ(なべタッピンねじφ4×40)を柵固定金具の長穴中央部分より締め付けてください。

**お願い**

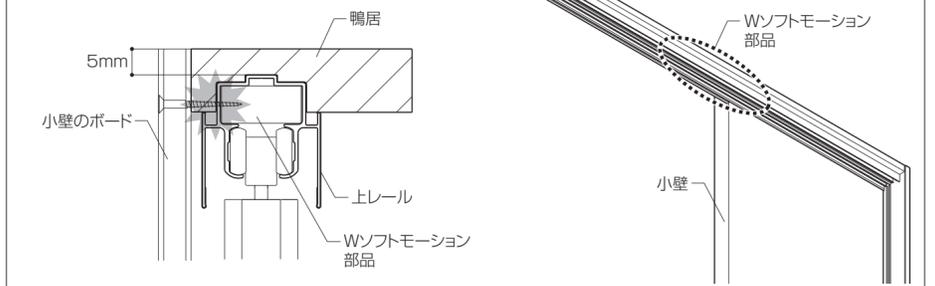
※建具引込み部の小壁の取付けは、柵を開口部に取付けてから行なってください。  
 ※柵固定金具の調整には電動ドライバーは使用しないでください。  
 ※必ず内装ボードは縦柵に突きあてて取付けてください。突きあてができない場合は必ずかい木を入  
 ってください。  
 ※本製品には中縦柵は同梱されていません。小壁の仕上げは現場にて対応してください。

**【縦柵】**



**■小壁のボード取付け**

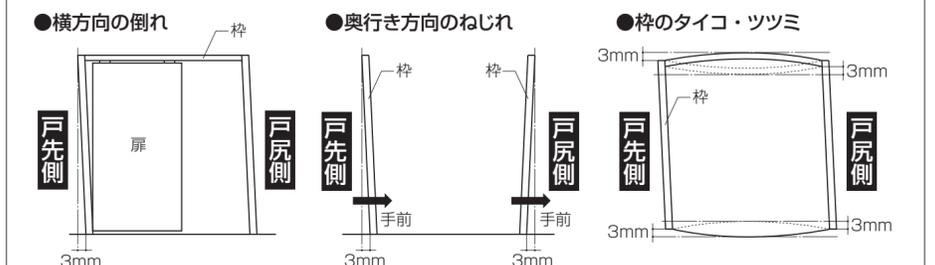
●小壁のボードを取付ける際、取付けねじが鴨居と上レールを貫通しないように注意してください。小壁をまたぐ位置にWソフトモーション部品があるため、部品が破損し、作動不具合の原因となります。



- ⑦柵の奥行方向のたおれを確認してください。たおれている場合は縦柵取付け用ねじをゆるめ、柵を動か  
 します。(奥行方向の調整幅は6mmです)調整後ねじを固定してください。
- ⑧柵の垂直を確認してから、柵固定金具の取付いている部分の開口寸法が均等になるように調整してくだ  
 さい。
- ⑨再度、柵の垂直を確認してください。

**■取付け精度の許容範囲**

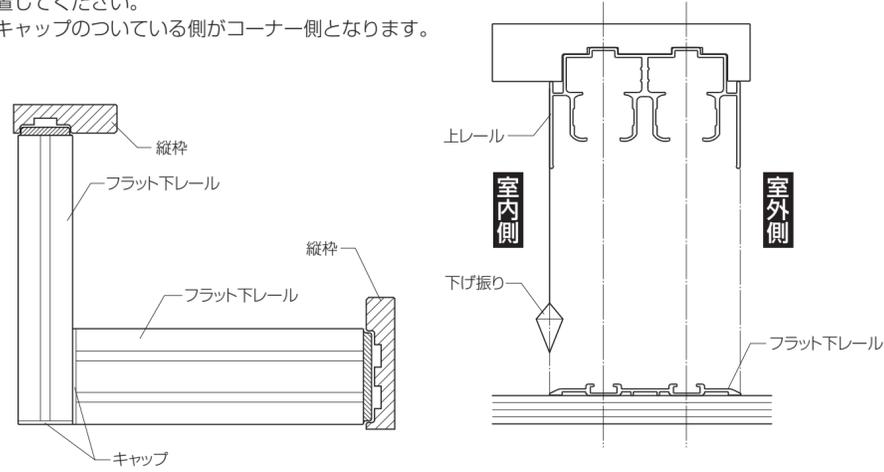
※横方向の倒れ・奥行き方向のねじれ・柵のタイコ・ツツミが3mmを超える場合は、  
 3mm以内になるように取付けを修正してください。(引戸が吊込めない・Wソフト  
 モーション機構の作動不具合の原因となります。)



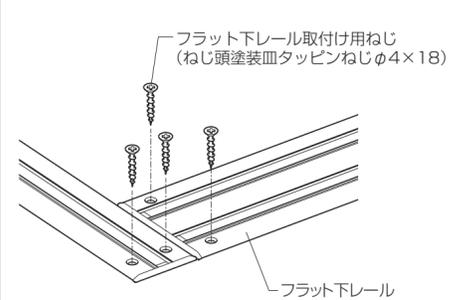
⑩納まり図を参考にフラット下レールを取付ける位置に墨出しをします。

**お願い**  
※上レールの真下にフラット下レールがくるように位置出ししてください。  
位置出しができていないと本体開閉不具合の原因となります。

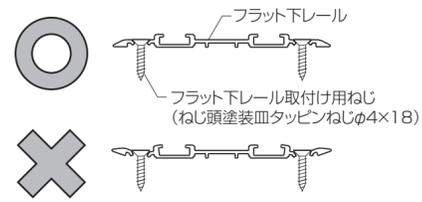
⑪墨出した位置に縦枠とフラット下レールを突き付け、フラット下レールが互いに垂直になるように設置してください。  
※キャップのついている側がコーナー側となります。



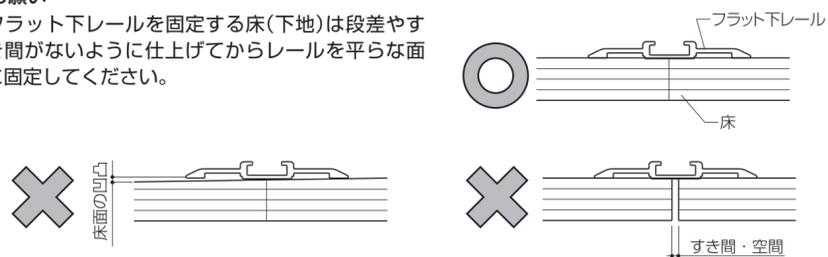
⑫フラット下レールをフラット下レール取付け用ねじ(ねじ頭塗装皿タッピンねじφ4×18)で固定します。



**お願い**  
※フラット下レールを取付けるねじは、締めすぎないようにしてください。フラット下レールが変形し、本体開閉不具合の原因となります。

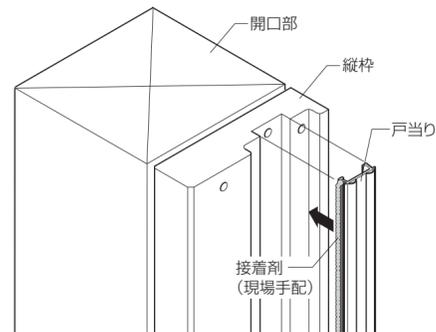


**お願い**  
※フラット下レールを固定する床(下地)は段差やすき間がないように仕上げしてからレールを平らな面に固定してください。

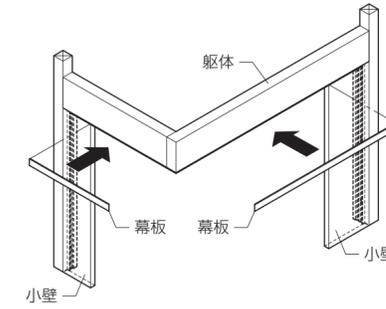


**【戸当り】**

⑬戸当りに接着剤(現場手配)を付けて溝をふさぎます。  
※戸当りは必ず、下枠取付け後に取付けてください。  
※戸当りが長い場合は、無理に入れずに必要量を切詰めてください。  
※戸当りの接着は必ず枠の建付け完了後に行うようにしてください。

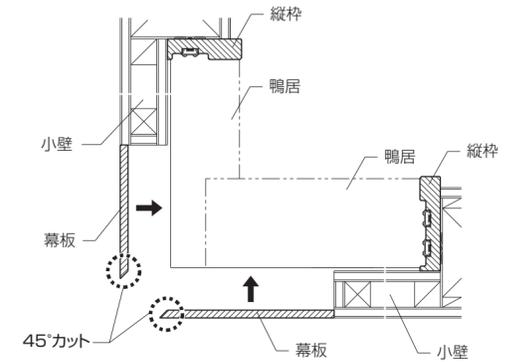


**4 幕板の取付け**



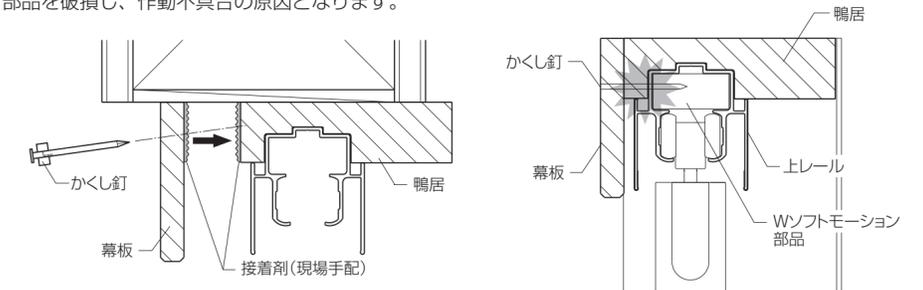
**4 幕板の取付け**

※小壁を仕上げた後に幕板を取付けます。  
①幕板を現場寸法に合わせてコーナー側を45°カットします。  
※幕板の上下取付け方向に注意してカットしてください。

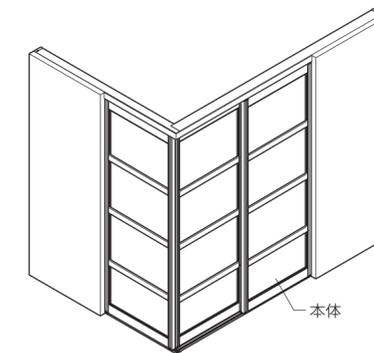


②幕板裏面の鴨居接着部分にまんべんなく接着剤(現場手配)を塗布します。  
③かくし釘(現場手配)で固定します。

※上レールにかくし釘を打込まないように注意してください。レールを貫通し、Wソフトモーション部品を破損し、作動不具合の原因となります。



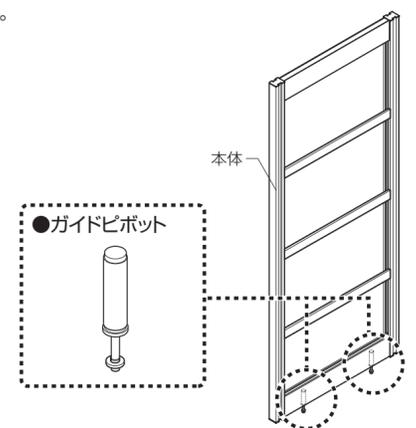
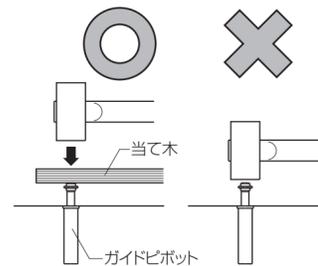
**5 本体の吊込み**



**5 本体の吊込み**

①本体下端の加工穴にガイドピボットを圧入します。

**お願い**  
※ガイドピボットを圧入する際は、樹脂部に当て木を使用してください。



②ガイドピボットをフラット下レールへ落とし込みます。

